

女性や若者をはじめとした 消防団加入促進モデル事業 実施結果報告書 (概要版)



鹿沼市消防団／鹿沼市消防本部
平成28年1月作成

背景

○自然災害の発生

鹿沼市では、平成26年2月の大雪、同年8月の竜巻によって、市民生活に大きな支障が生じました。これらの災害を通じて、消防団員が救助活動等に積極的に関わっていく必要性が高まってくるとともに、救助資機材の1つであるチェーンソーを用いた活動が災害応急対応に有効的であるとの意見が挙がってきました。



大雪や竜巻による被害（平成26年）

事業の概要

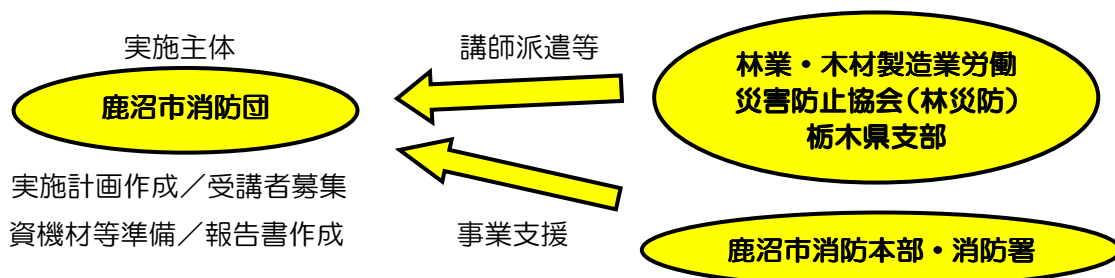
○ 事業内容

災害時におけるチェーンソーを用いた救助活動等を安全かつ円滑に実施するために、労働安全衛生規則で定める「伐木等の業務に係る特別教育」の修了者を養成するとともに、特別教育修了における消防団加入のインセンティブを調査しました。

○ 事業スケジュール

平成27年							平成28年	
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	事業計画・打合せ							
	事前周知・受講者募集							
	特別教育開催（3回）							
					アンケート集計・報告書作成			

○ 実施体制



実施結果

○ 講習内容

区分	1日目（学科講習）	2日目（実技講習）
会場	鹿沼市消防本部大会議室	鹿沼市板荷地内民有林
科目等	<ul style="list-style-type: none">・開講式・伐木作業に関する知識・チェーンソーに関する知識・振動障害及びその予防に関する知識・関係法令等	<ul style="list-style-type: none">・伐木等の方法等・チェーンソーの操作・チェーンソーの点検及び整備・閉講式・修了証交付・アンケート調査

○ 受講者数

区分	日程	定員	受講者数	備考
第1回	8月22日（土）、23日（日）	30人	22人	
第2回	10月 3日（土）、 4日（日）	30人	26人	
第3回	10月17日（土）、18日（日）	30人	13人	
計	—	90人	61人	



チェーンソーの取扱方法



立木伐採



倒木伐採

事業の成果と課題

○ 事業の成果

本事業では、労働安全衛生規則に定める「伐木等の業務に係る特別教育」の修了者61人を養成しました。また、特別教育修了者に対するアンケート調査によって、チェーンソーの取扱方法の習得を通じた救助活動に対する意欲向上、資格取得による消防団加入のインセンティブの検証を行い、一定の有効性を確認しました。

○ 救助資機材の活用

消防団員がチェーンソーなどの救助資機材を活用し、救助活動を行っていくことについては、多くの消防団員が前向きに考えており、災害対応能力の向上が消防団の魅力アップにつながっていくものと考えられます。

しかしながら、救助資機材の活用には、相応の危険性が伴うこともあり、安全管理の徹底を図るための教育訓練の拡充が重要であり、多忙な消防団員における負担増加が危惧されます。

○ 資格取得によるインセンティブ

本事業の結果では、消防団員に対して資格取得の機会を与えることが、幅広い層の人達の入団を促進し、消防団員を確保するために有効的であると考えられます。

ボランティア精神を重んじる消防団員ですが、相応の対価や優遇を望む者も少なくないことから、「目に見えるメリット」、「実感できる優遇」として有効的であるとともに、消防団員の技能と活動意欲の向上が図れるものと考えられます。

○ 多忙な消防団員

消防団員は、日頃の教育訓練や施設の維持管理、地域事業への参加協力等の様々な活動を行っており、仕事や家事、育児、地域事業等で多忙な者も多く、資格取得に要する時間を確保することがなかなか難しい現状です。

本講習においても、受講を希望していたにもかかわらず、多忙のため日程の都合がつかなかった消防団員が複数いた状況でした。

○ 事業の実施体制

林災防栃木県支部とは、講習の計画段階から十分な打合せ等を行い、運営面でサポート体制に支障はなく、円滑に実施することができました。また、講習機関による専門講師であり、チェーンソーの構造や取扱、伐木方法や安全管理等に関する知識や経験が豊富で、受講者からは大変好評でした。なお、受講者の安全管理対策や実技講習会場の確保については、林災防栃木県支部が重要な役割を果たしました。

○ 講習資機材の確保

本事業で使用使用するチェーンソーは、当初はリース会社からの調達を計画していましたが、必要な台数を確保することが難しいことから、消防団や消防署、市防災担当部局、林災防栃木県支部、消防団員個人が所有するチェーンソーを使用しました。

また、チェーンソーは危険性の高い資機材であることから、講師の指導等を受けて、ヘルメットや耐切創手袋のほか、保護メガネや保護ズボンなど、必要な安全装備品を着用しました。

○ 事業の継続性

本事業を継続して実施していくためには、多くの消防団員が参加しやすい日時や会場の選定、講習資機材や実技講習会場の確保等が課題となります。特に、日時の選定は、勤務体制が多様化したり、仕事や家事、育児、地域事業等で多忙な消防団員も多い状況で、一定の受講者数を確保できるよう配慮していく必要があります。

また、講習機関からの講師派遣等によって資格を取得させるには、財政的な負担が大きいことが課題となります。継続的に実施するには、その費用対効果や費用負担の在り方等を検討していく必要があります。

**女性や若者をはじめとした消防団加入促進モデル事業実施結果報告書
(概要版) 平成28年1月作成**

発行: 鹿沼市消防本部消防課 鹿沼市上殿町 520-1 電話 0289-63-1156